



## ブラジルの富山県人

### 日本人のブラジル移民

ブラジルに到着した最初の日本人集団移民船は、1908年4月28日に兵庫県神戸港を出航し、6月18日にサンパウロ州サントス港に到着した「笠戸丸」と記録されています(781名、168家族)。

当時ブラジルではコーヒーが盛んで、移民者のほとんどはコーヒー農場や、農業開拓のために山奥に入植されました。1888年に奴隷制度が廃止となって以来ヨーロッパから大勢の移民(主にイタリアやドイツ)を受け入るも、拡大するコーヒー栽培を中心とした農業での労働力不足の問題があり、日本でも長い鎖国からの文明開化と、余剰人口の削減を目的とした明治の政策が続いていて、両国にとって都合の良い状況でした。

しかし、奴隷制度の廃止を補うための「雇用」であったため実際には奴隷に等しい厳しい労働条件と生活が移民者たちに押し付けられたと言われています。

言葉が全く通じない異国での生活は、法律や医療はおろか、日常の単純な情報を得るだけでも困難でした。また、電話も普及していない時代では故郷の情報も手に入らず日本とは孤立した状況に置かれていました。そのため、多くは同郷の仲間との連携と郷土との絆を保つため、方言で会話ができる価値観や習慣などを共有できる同郷の親睦会を結成し、それが今日ブラジルに存在する複数の日系団体や「県人会」に発展していったと考えられます。

日本人のブラジル移民は20世紀初期に始まり、太平洋戦争勃発後は一時期途絶えますが、戦後は余剰人口を減らすための海外移住政策が打ち出され、既にある程度の土台が出来上がっていたブラジルへの移民が再開します。始めは農園での労働が中心の農業移民でしたが、高度成長期に入ると日本企業の海外進出を目的とした技術移民も加わります。

### 富山県人のブラジル移民

富山県出身者のブラジル移民は1910年に始まりました。神戸港を年5月4日に出港し6月28日にサントス港に到着した「旅順丸」には県民10名(3家族: 富山市の青木家と内山家、氷見市の扇浦家)がいました。入植先は港から内陸へ 200km 程入ったガアリローバ農場(サンパウロ州カンピーナス市)とサンタ・ヒッタ農場(同州ヒベイラウン・プレット市)のコーヒー園でした。

日本からブラジルに渡った移民の数は24万人以上ですが、富山県出身者は2千にも達しないと考えられ、都道府県の中で35位にあります。主な入植先としてサンパウロ州(第三アリアンサ地区、スザノ市、モジ・ダス・クルーゼス市)、パラナ州(ロンドリーナ市)、リオ州といった、南東地方に散らばっていて、中で最も多かったのが海から 700km 程離れている第三アリアンサ地区です(アリアンサ村、富山村等とも呼ばれています)。

現在ブラジルの、富山県出身の移民者(一世)の数は120から200名と予測されていて、県出身者子弟の世帯数は1000未満です。



## ブラジルの日系コミュニティ

### 日系コミュニティの規模

20世紀初期から大勢の日本人移民者を受け入れてきたブラジルは、現在日本国外で最も日本人・日系人が多い国とされています(推定190万人)。日本人のみ(一世)の数では、永住権所有者が50573人と、長期滞在者(永住権なし)が3441人です。(日本国外務省2015年10月統計)

様々な日系団体が存在する中(殆どがサンパウロ市内)、代表的な団体として以下があげられます:

「ブラジル日本文化福祉協会」(通称 文協、BUNKYO – <http://www.bunkyo.org.br>)

日本の歴史と文化紹介や、日伯交流事業の中心的機関の役割を果たしています。建物内には日本語学校や交流団体事務所、「ブラジル日本移民史料館」があります。

都道府県人会(47)と「ブラジル日本都道府県人会連合会」(通称 県連、KENREN – <http://www.kenren.org.br>)

各都道府県人会はそれぞれの母県との留学や研修などの交流事業を展開しています。また、県連を通じて全都道府県人会が共同で行う事業もあります(例えば、世界最大の日本文化紹介イベントとされている、サンパウロの「日本祭り」)。

ASEBEX 日本留学生研修員ブラジルOB会 ( <http://www.asebex.org.br> )

日本での留学や研修経験を持つOBの交流団体で20～30代が中心となっています。将来の留学生や研修員に向けた各交流プログラムの説明会や講習会を行っています。

ブラジル日本商工会議所 ( <http://jp.camaradojapao.org.br> )

日系企業や日本と関わりある企業が中心となっていて、両国との間の貿易におけるの情報提供・交換や研修などを行っています。

### 「日本ブランド」の評価

ブラジルで日系メーカーは、全体的にマーケットシェアは低いですが評価は高く、特に電子機器や車などの工業商品は質が良いのがブラジル人の一般的な意見です。

機械以外にも、お寿司屋やラーメンも人気があり、和食は健康的だというイメージです。

また、折り紙や生け花などの伝統的な文化や芸術の他にも、若者の間ではアニメ・マンガや J-POP 音楽を始めとする最近のポップカルチャーも支持されています。

更に人材も高く評価されていて、特に仕事熱心という印象が強いです。その理由は主に2つあると考えられ、一つは敗戦からの復興と世界進出を果たした日本の歴史と、もう一つは日本人移民者たちが築き上げてきた信頼です。移住者の多くは、来泊当初は過酷な生活を送っていたにもかかわらず、後に比較的裕福な暮らしができるほど社会的・経済的成功を得た為、昔は「japonês garantido」(ジャポネース ガランチード)、つまり「日本人は信用できる」という言葉がよく使われていました。